

認定看護師通信 (No. 11)

今回は、認知症看護認定看護師が令和4年10月に当院の看護補助者を対象とした『身体拘束体験』についてお話しします。

ベッドから出られないよう柵で囲まれ、体幹ベルトや両手にミトンを装着されています。



鼻が痒いけど
かけないよ

起きられないよ！
誰か～



どうでもいいや…



腰が痛い～



きついよ
やめて～

上の2名は、安心ベルトを装着し、車椅子に乗ったまま廊下に放置されています。
介護寝巻を着ているため、自分で脱ぐことができずトイレにも行けません。

参加したスタッフからは…

- 車椅子では動けるけど、一人ではトイレで用を足す事も出来なく、苦痛だった。
- 体幹ベルトは縛られて嫌だ。鼻もかけない。
- 刑務所みたいだった。大声で人を呼びたかった。
- どうにかしてミトンを外したかった。
- 拘束されている患者さんが、大声を出す気持ちが分かった。

…等の意見が聞かれました。

今後は、他職種にも身体拘束体験を実施し、身体拘束されている気持ちを感じてもらい、患者さんの尊厳を守るケアを実施できるよう努めていきます！

次は、摂食・嚥下障害看護認定看護師 が担当します。